

フィルタリング利用促進検討会 報告書（概要）

2016年12月15日

目次

1. 検討の背景と概要
2. 利用者ニーズの調査結果
3. 既存フィルタリングの改善
4. 利用者ニーズと保護の両立
5. 今後の課題・各団体に期待される役割
6. 結論

参考資料

1. 検討の背景と概要

(1) 背景・目的

■ フィルタリング利用促進検討会の設置

タスクフォースで提示された論点を受けて、安心ネットづくり促進協議会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構の三団体はフィルタリングの在り方に関する検討協議会を設立し、同協議会により「フィルタリング利用促進検討会」(以下「検討会」)が設置された。

■ 検討の目的

有効な青少年保護施策を実現するにあたって、スマートフォン時代に即した、より使いやすいフィルタリングの実現を含めた今後の在り方について論点を整理するとともに、改善指針を提案することを目的として検討を行った。

1. 検討の背景と概要

(2) 開催概要

検討会の構成

【座長】

坂元 章 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 教授

【副座長】

曾我部 真裕 京都大学大学院法学研究科 教授

【委員】

尾上 浩一 公益社団法人日本PTA全国協議会 顧問

小原 太美恵 山手学院中学校・高等学校 国語科教諭／生活指導部長

小原 良 川崎市教育委員

北 俊一 株式会社野村総合研究所 プリンシパル

高田 教子 一般社団法人全国高等学校PTA連合会

西田 光昭 千葉県柏市立柏第二小学校 校長

森 亮二 英知法律事務所 弁護士

【オブザーバー】

安心ネットづくり促進協議会

一般社団法人 電気通信事業者協会

一般社団法人 モバイルコンテンツ審査・運用監視機構

【事務局】

株式会社三菱総合研究所

(敬称略。委員は50音順。)

開催状況

第1回 (8月)	<ul style="list-style-type: none"> ● フィルタリング利用促進検討会の開催趣旨について ● 検討会の問題意識及びアウトプットについて ● 青少年のニーズ把握調査について ● 今後の作業の進め方・スケジュール（案）について
第2回 (9月)	<ul style="list-style-type: none"> ● フィルタリングサービスの概要・現状について（※） ● 青少年のニーズ把握調査結果について ● 新たな選択肢の具体的なイメージと課題について
第3回 (10月)	<ul style="list-style-type: none"> ● 啓発活動について ● 前回検討会での論点及び今後の課題について ● 新たなフィルタリング機能と販売フローについて ● 報告書骨子案について
第4回 (11月)	<ul style="list-style-type: none"> ● 報告書案について

※フィルタリング事業者 2 社からの発表を含む

1. 検討の背景と概要

(3) 検討項目

① 既存のフィルタリングについて改善できることは何か。

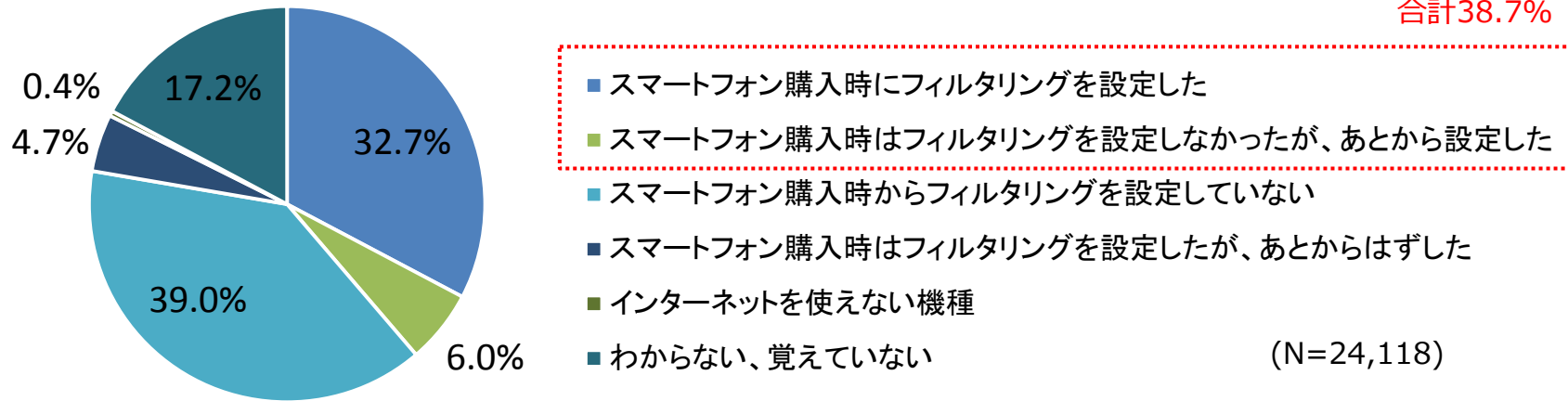
② アプリ・サービスの利用と、フィルタリングによる様々なリスクからの保護は両立できないか。

③ フィルタリングの提供と併せて実施・改善することが望ましいことは何か。

2. 利用者ニーズの調査結果

(1) フィルタリング利用率と、利用しない理由

子供のスマートフォンのフィルタリング設定率



(母数：子どもがスマートフォンを保有していて、かつ、子どもがサイト・アプリを利用している保護者)

フィルタリングを利用していない理由

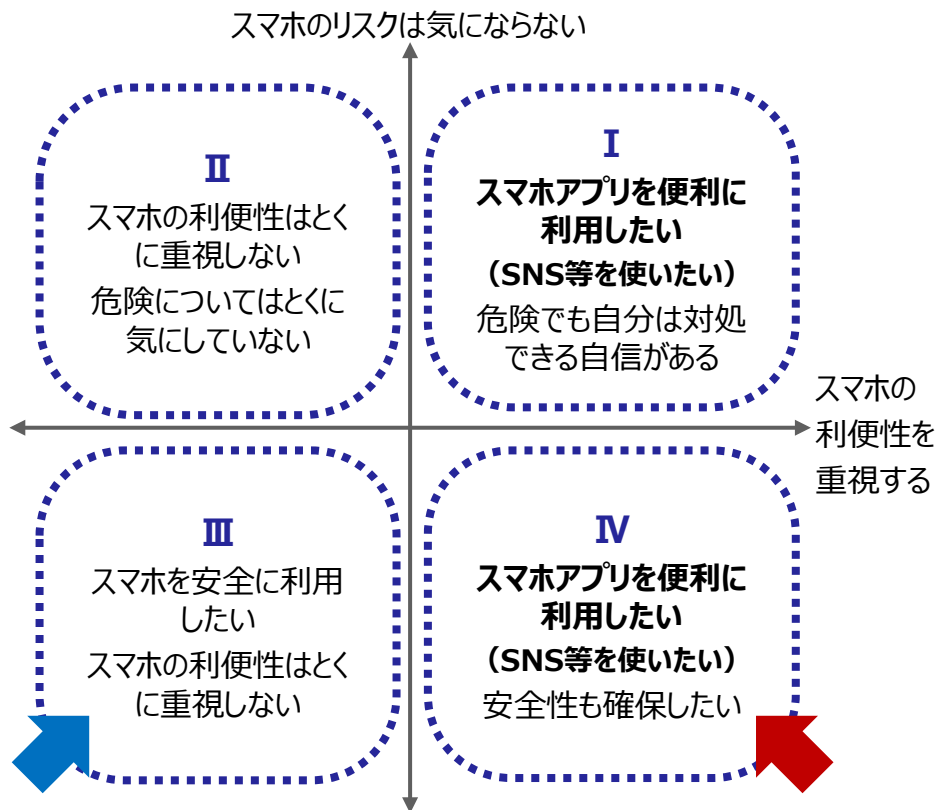
保護者が管理できるから	28.1%
利用できないアプリ等があるから	25.5%
子供を信頼しているから	19.8%
子供が反対したから	6.1%
設定に時間や手間がかかる	6.0%
説明がなかった	5.3%
その他	9.3%

出所：フィルタリング利用促進検討会 アンケート調査

2. 利用者ニーズの調査結果

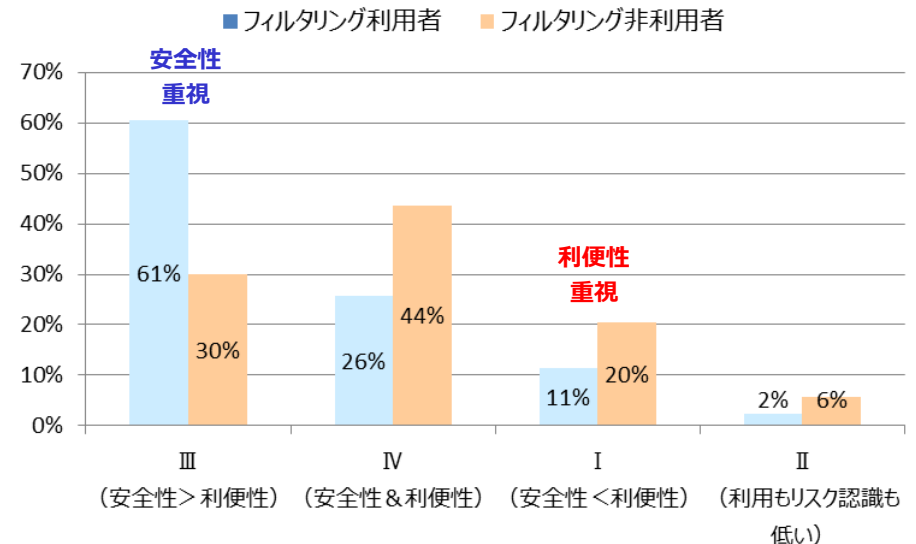
(2) フィルタリング非利用者（保護者）の属性分析

- フィルタリングを設定していない保護者では、リスク対策と利便性の両方を重視している層が多いことがみてとれた。



フィルタリング利用者はこの層が多い

フィルタリング非利用者はこの層が多い



出所：フィルタリング利用促進検討会 アンケート調査

2. 利用者ニーズの調査結果

(3) アプリ・サイト利用に関する保護者の意向

- 保護者の意向をみると、LINE、YouTube、学習に使うサイトは許容派が多かった。高校生の保護者の場合は、その他についても許容派が多かった。

	Facebook	Twitter	Instagram	LINE	YouTube	ニコニコ動画	学校、塾のサイト、質問投稿サイト
小学生の保護者	×	×	—	○	○	×	○
中学生の保護者	△	△	—	○	○	×	○
高校生の保護者	○	○	○	○	○	○	○

× : 「子どもの利用を制限したい」> 「子どもが利用してもいい」 (制限派が多い)

△ : 「子どもの利用を制限したい」≒ 「子どもが利用してもいい」 (同程度)

○ : 「子どもの利用を制限したい」< 「子どもが利用してもいい」 (許容派が多い)

— : (子どもの) 利用者数が少ないため、比較を行っていない

* 利用に反対する意見も4割程度あった

出所：フィルタリング利用促進検討会 アンケート調査

3. 既存フィルタリングの改善

(1) 問題点

- フィルタリングの名称が各社により、またネットワーク種別やサイト・アプリの別により異なることで、啓発が難しくなっている状況について検討会で多く指摘された。
- フィルタリングの種類が多様化する中で、携帯電話事業者が個々の利用者のフィルタリング設定状況を正確に把握することが難しくなっている点も指摘された。
- フィルタリングのカスタマイズを推奨すべきという意見も出されたが、他方で、フィルタリングを設定する段階でも難しさを感じている保護者が少なくなく、そうした保護者にとってはカスタマイズはハードルが高いと感じる、との指摘もあった。

3. 既存フィルタリングの改善

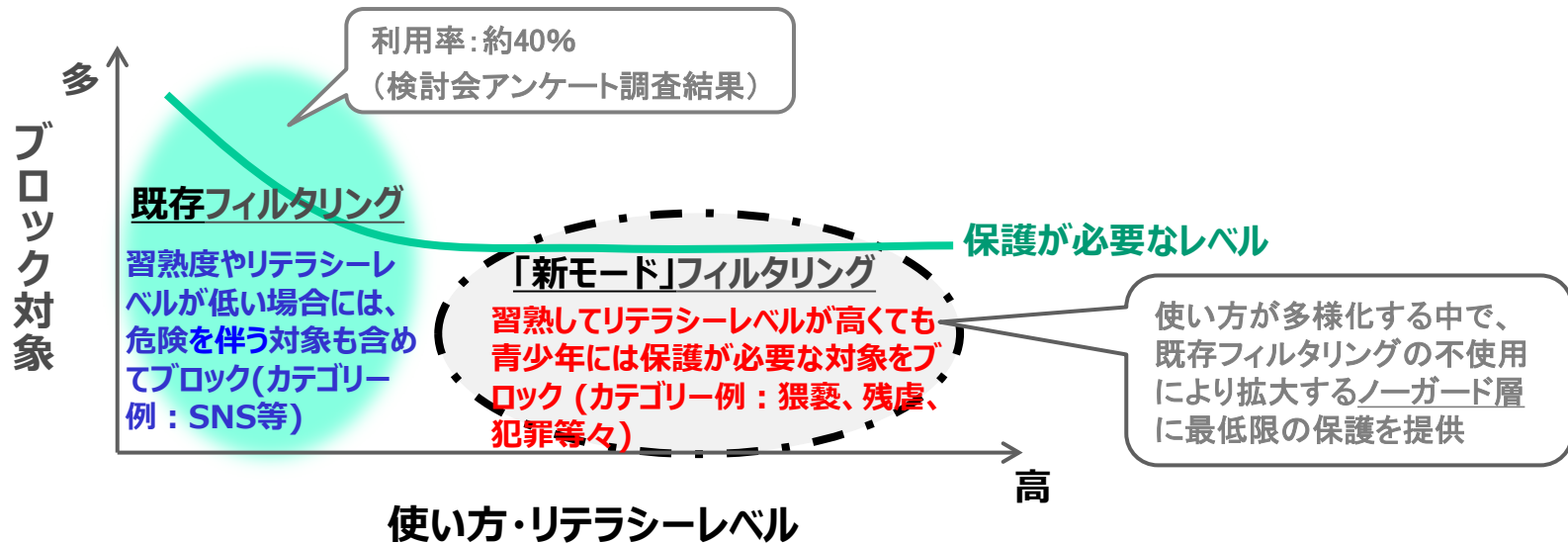
(2) 考えられる対応策

- フィルタリングの名称やサービス構成（携帯電話回線向け、Wi-Fi向け、アプリ向け）について、各社のサービス名称やアイコン等を統一化することが望ましい。
- フィルタリング利用の申込状況について店頭で定量的にモニタリングし、必要に応じて改善を実施できるようにすることが望ましい。
- フィルタリングの設定（カスタマイズも含む）については、フィルタリング事業者等での改善の取組に加え、啓発活動も行われているが、個々に行われている活動に関する一層の周知も含めて引き続き取組がなされることが望ましい。

4. 利用者ニーズと保護の両立

(1) 問題意識と考えられる対策：「新モード」

- フィルタリングを設定していない保護者の多くは、スマートフォンの利便性と安全性の両方を求めている。（それにも関わらず、フィルタリングを利用していない。）
- この場合、利用者である青少年は、フィルタリングが防いできた様々なリスクについて全く保護されていない（「ノーガード」）の状態にある。
- 利用者保護と両立する範囲で利便性にも配慮したフィルタリング（**「新モード」**）を提供することで、「ノーガード」の青少年に対して最低限の保護を提供することは喫緊の課題と考えられる。



4. 利用者ニーズと保護の両立

(2) 「新モード」の目的・内容・位置づけ

目的

- スマートフォンの利便性を犠牲にしたくないために既存のフィルタリングを使用していない青少年に対し、最低限の保護を提供し、全体の安全性のレベルを高めるため

内容

- 利用者ニーズと保護者の意向をふまえたフィルタリングを提供する
- Android端末：新たなフィルタリングレベルを設定
- iOS端末：OS機能制限を使用（これにより、設定時の時間・負担の削減も期待）

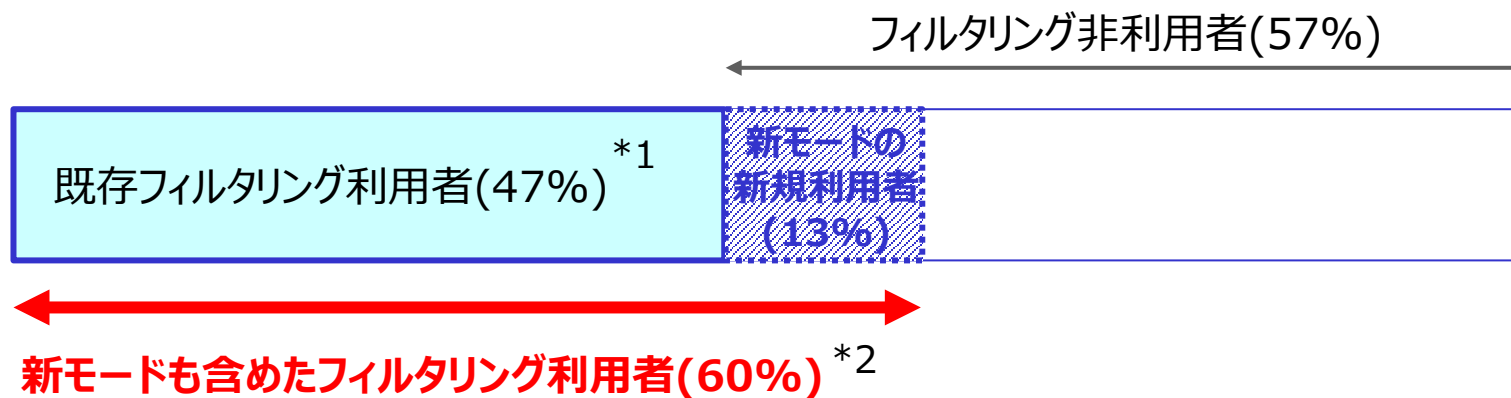
位置づけ

- 青少年に対しては原則これまでと同様に既存フィルタリングを提供
- 既存フィルタリングの利用を申し込まない利用者に対する例外的措置として、最低限の保護手段を提供する（ただし、セグメンテーションは別途検討する）
- 少なくとも「新モード」はすべての青少年が使う状態に近づくよう、店頭での十分な説明や推奨を行う

4. 利用者ニーズと保護の両立

(3) 「新モード」の導入効果

- アンケート結果からは、現在フィルタリングを利用していない層が新モードを利用する比率は全体の約13%と推計される。(フィルタリング利用者の比率が13%高まると推計される。)



*1 アンケート回答のうちで、「インターネットを使えない機種」「わからない、覚えていない」を除いて、「利用率」を算出しているため、前掲の結果とは数値が異なる。

*2 アンケート設問で、「新モード」に該当するサービスを利用する意向を示した回答者の比率から算出。(注：今回は定量的には算出していないが、店頭での勧奨や、学校・地域での推奨・義務付けによって、さらに増えることも期待される。)

4. 利用者ニーズと保護の両立

(4) 「新モード」導入に際して考慮が必要な点

新モードの 対象者

- 既存フィルタリング・新モードに関する利用者のセグメンテーションを検討することが必要である。
- その上で、新モードが適切な対象者に提供されるよう、店頭での対応が適切になされることが必要である。

リスクの 抑制

- SNSを利用できるようになるので、これまで以上にリスクのモニタリング、情報提供、注意喚起が重要になる。
- 販売時におけるリスクの啓発（例：啓発資料の店頭での案内等）も重要である。

5. 今後の課題・各団体に期待される役割 (1/2)

分類	課題	備考	対応団体等	対応時期
フィルタリングの提供	(1)販売時における対応のさらなる向上	店頭での対応、SNSに関する啓発情報の案内等	電気通信事業者協会	2017年春
	(2)フィルタリングのわかりやすさ向上(名称・サービス構成等)	名称の統一化等		
	(3)新モード提供	新モードの提供によるリスクと保護の両立	電気通信事業者協会	2017年春
	(4)PDCAによる改善	フィルタリング利用の申し込み状況の店頭での定量的モニタリング、必要に応じた改善の実施	電気通信事業者協会	可能な限り早期に実施
	(5)フィルタリングのわかりやすさ向上(フィルタリング基準・対象等)	フィルタリングの基準、なぜ対象となるか(どんなリスクがあるか)等の具体的な情報提供の促進	3団体に、他の関係者も交えて取り組む	可能な限り早期に実施
	(6)SIMフリー・MVNO端末対応	SIMフリー・MVNO端末におけるフィルタリング	電気通信事業者協会、MVNO事業者	可能な限り早期に実施

5. 今後の課題・各団体に期待される役割 (2/2)

分類	課題	備考	対応団体等	対応時期
リスクの監視・評価	(7)リスクのモニタリングとタイムリーな情報提供	個々のアプリ・サービスに関するリスクの注視・評価、必要に応じ情報提供・注意喚起	モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	2017年春
啓発	(8)啓発教材等の水準確保・集約	啓発教材の水準確保のためのセルフチェックシートの作成、教材情報の集約	安心ネットづくり促進協議会	2017年春
	(9)店頭以外での啓発	学校・地域等での説明・啓発（推奨・義務化等）の促進に関する関係者の検討	安心ネットづくり促進協議会、その他関係者	可能な限り早期に実施
その他	(10) リテラシー評価	利用者リテラシーの評価手法に関する検討	他の関係者も交えて取り組む	可能な限り早期に実施
	(11) 総合的なリスク対策の取組	フィルタリング以外の手段も含めた総合的な取組の検討 (例：年齢確認手段の提供・利用)	3団体の他、コンテンツ事業者など（取組内容による）	可能な限り早期に実施
	(12) フィルタリングの提供および啓発を持続させる体制	各取組を継続的に行うための体制の検討・運用	3団体を中心に対応	当面の取組と並行して検討

6. 結論

- フィルタリングが青少年の携帯電話の利用に際しての有効な保護ツールであるとの認識に基づき、その利用促進を図るためには、この報告書で示した対応を3団体が着実に実行するとともに、今後の課題について関係機関と調整を行って進めていく必要がある。
- とくに、「新モード」の提供にあたっては、利用者ニーズと保護が両立するよう、本検討会で指摘された様々な取組・施策が十分に実行されることが必要である。
- これらの総合的な措置により、一層多様化するリスクに対して、幅広い層に向けたより充実した青少年保護環境を整備することが望まれる。

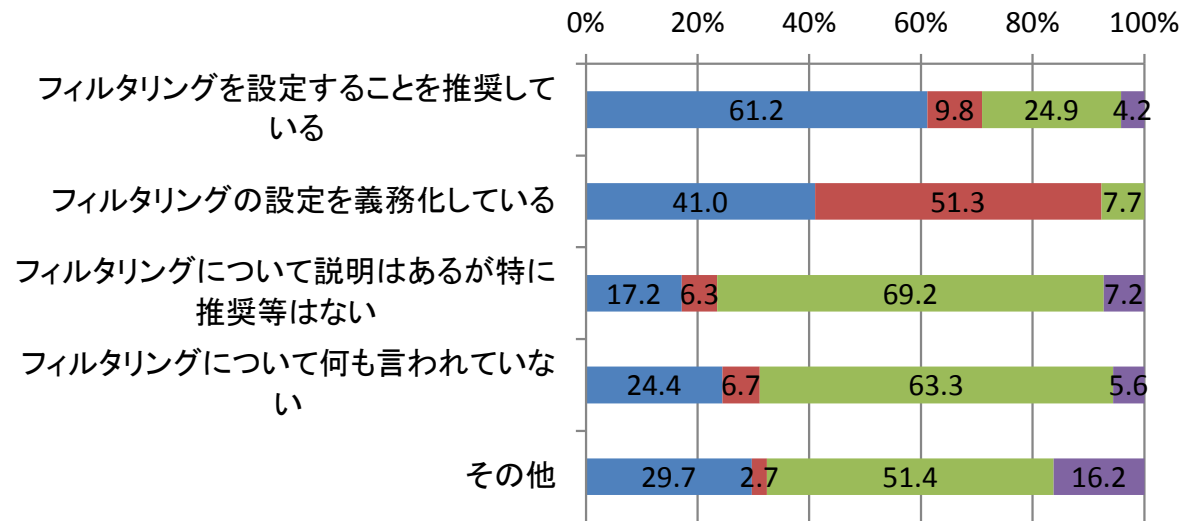
参考資料

参考：利用者ニーズの調査結果

【学校・地域での推奨・義務付けの効果】

- フィルタリングが義務化されている学校は多くないが、義務化されている場合にはフィルタリングを（購入時ではなく）あとから設定する率が大幅に高くなっている。

学校からのフィルタリングに関する情報提供とフィルタリング設定率の関係



- スマートフォン購入時にフィルタリングを設定した
- スマートフォン購入時はフィルタリングを設定しなかったが、あとから設定した
- スマートフォン購入時からフィルタリングを設定していない
- スマートフォン購入時はフィルタリングを設定したが、あとからはずした

出所：フィルタリング利用促進検討会 アンケート調査